

概要

2011年【古典を読む-歴史と文学-】 「いま明かされる古代XXVIII」

第2回 信濃への都からのまなざし - 平城京と信濃 -

開講日時： 6 / 18 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵝会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：奈良文化財研究所 都城発掘調査部

史料研究室 主任研究員

馬場 基(ばば はじめ)先生

概要： 平城京からみると、「信濃」はどのように見えるのだろうか。

平城京は、全国の様々な人・モノ・情報があつまる場所であつた。また、そこから多くの人・モノ・情報が全国各地へと伝わっていく場でもあつた。

全国の文化が集まる場所で、新たな文化が生み出され、それがまた各地へともたらされる。

この過程で、共通性の高い文化が日本列島各地で共有され、各地固有の文化と融合しながら今日につながる地域色をはぐくんだと考えられる。

そうした情報の中で、信濃はどのように見えていたのか、あるいは都には「信濃」に関するどのような情報が蓄積されていたのか。木簡や法制資料、文学作品など、いくつかの事例を見ながら検討してみたい。